

令和4年度第2回

豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 議事録

日 時：令和5年3月23日（木）

午後2時～4時

場 所：市役所南庁舎7階 南74委員会室
Web 併用会議

■ 出席者

（豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会委員）

※五十音順

所属機関・団体名	氏 名	出欠
豊田市高齢者クラブ連合会	稲垣 令一	○
市民公募	岩佐 伸雄	○
豊田市民生委員児童委員協議会	梶 鐘治	○
一般社団法人 豊田加茂医師会	柴原 弘明	○
豊田市介護サービス機関連絡協議会	傍嶋 博志	○
豊田市ボランティア連絡協議会	田中 すい子	○
一般社団法人 豊田加茂歯科医師会	谷川 博伸	○
日本福祉大学中央福祉専門学校	長岩 嘉文	○
社会福祉法人 豊田市社会福祉協議会	中田 繁美	○
中京大学 現代社会学部	中田 雅美	○
豊田市ファミリー・サービス・クラブ	三崎 祐子	○
豊田市特別養護老人ホーム施設長協議会	三井 克哉	○
一般社団法人 豊田加茂薬剤師会	山田 雄三	○

■ 豊田市社会福祉審議会 高齢者専門分科会 次第

1 開 会

2 議 事

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】高齢者等実態調査の報告 (報告事項)

【議題2】第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の
策定方針等について (協議事項)

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予
防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について
(承認事項)

【議題2】令和5年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について
(承認事項)

【議題3】豊田市認知症初期集中支援チームの今後のあり方について
(報告事項)

3 報告事項

4 連絡事項

令和5年度豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会スケジュール

〔 議 事 内 容 〕

(1) 高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に関すること

【議題1】高齢者等実態調査の報告

(報告事項)

概要説明（介護保険課）

- ・高齢者等実態調査の結果について説明

(会長)

豊田市は地域包括支援センターの認知度が比較的に高いと思う。「利用したことがある」、「利用したことはないが、所在地や連絡先を知っている」の割合が落ちている。油断していると現状維持できないのかもしれない。

前回調査がコロナ前だったので比較することが難しいことがあるかもしれませんが、質問等があれば、お願いします。

(委員)

報告になかった医療・看護に関する調査項目の結果はどのようなか。

(事務局)

例えば、在宅療養の認知度について、「在宅療養の言葉だけは聞いたことがある」が48.8%、「知らない・無回答」が13.6%であった。また、病気などを抱えたことを想定して今後の生活などについて考えたり、子どもや家族と話し合ったりしているかどうか、人生の最後をどこで迎えたいかというような項目を設定している。その結果については本編の方でご紹介させていただく予定である。

(委員)

情報通信機器の使い方が分からない方に対して何か取組を進めるのか。

(事務局)

スマートフォンの使い方の教室を開催している。豊寿園では毎月、1回あたり15人の規模で開催している。これをいかに規模拡大し、支援が必要な（デジタルに弱い）高齢者に受けていただくかが今後の課題である。

(会長)

今回示された主な調査結果は概要版であるが、全体は公表されるのか。

(事務局)

資料最後のページにある QR コードから見ることができ、4月以降にホームページで公表する。

(委員)

美里交流館で毎月、スマートフォン教室を開催している。機種によって使い方が違い、難しく感じている。こうした取組が広がっていくと良い。

(委員)

調査で正確なデータが出てきたので、これからどうしていくのか聞きたいし、この会で話し合いたい。

(会長)

今日は調査結果を報告し、令和5年度の協議に繋げていくという理解でいいか。

(事務局)

今日の意見を含め、令和5年度にみなさまから意見をいただいて、計画を策定していく。会議以外でも意見をいただいて進めていきたい。

(委員)

区長会、民生委員など単独で活動をしている。共通する議題はみんなで取り組んだ方が良い。現状として、他団体へ踏み込めない。発想の転換をして柔軟に対応していく会議にしていかなければいけないし、災害時の危機管理においても、高齢者を上手に使ってほしい。バラバラでやっていることが納得できていない。目的は一緒なので、解決できることもある。

(会長)

共通課題は、各団体で集まって解決していけば良いのではという提案でした。

スマートフォンの教室について話題に上ったが、名古屋市では、スマートフォンの65歳以上の方の保有率が前回調査で4割だったが今回は6割まで上が

っていた。ただ、用途まで聞くと、検索までできるのは6割、アプリを使用というところまでいくと一気に2割まで落ちるので、豊田市での結果も共通する。テクノロジーの活用からは漏れる人もいる。このようなツールに頼った情報提供はまだちょっと早いですかね。

(会長)

施設等への入所を考えるきっかけについては、専門家の認識と本人・家族の認識との間でギャップがあるかもしれない。

また、介護が必要となった主な原因では、他市では転倒・骨折がトップに来ることが多いが、豊田市は認知症がトップになっており特徴的である。介護の現場ではどのように感じているか。

(委員)

隣近所などを配慮したり、安全面を考慮したりして、施設を選択しているのかもしれない。本人の希望に合うようできるだけ在宅で介護を受けられる環境が必要になる。

(委員)

施設で暮らすことも地域で住み続けることであると認識している。認知症の方が増えているが、地域ケア個別会議などを通じて、住みやすいまちづくりを進めていければと考えている。

(委員)

豊田市は車の運転をして移動する人が多く、認知症により車の運転ができなくなり、移動ができなくなる。また、コロナで地域の集いの場や会が消滅しており、外部との接触がかなり減っている。

また、電気代等の高騰により生活が圧迫されていることも考えられるので、こういうことも踏まえた対応が必要になる。

(会長)

コロナ情勢、所得・貧困などの調査後の環境の変化を捉えていかなければならない。

【議題 2】 第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の

策定方針等について（協議事項）

概要説明（高齢福祉課）

・第 9 期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定方針等について説明

（会長）

アフターコロナなのか、引き続きウィズコロナなのか、個人によって認識の違いはあると思うが、計画の基本的な考え方について意見等がありますか。

（委員）

これから検討を進めるが、現状ではどんなことを行っていくことを考えているのか。

（事務局）

認知症の方の社会参加や支援チーム作りを 9 期計画においても進めていきたいと考えている。

（会長）

コロナで地域活動の団体が解散してしまったところがあるが、現状はどうか。

（委員）

おもいやりのまちの主語は誰なのか。高齢者の計画だから高齢者とするのではなく、市民に広げて、介護予防も取り組んでいく必要がある。そのためには、居場所・生きがいの復活を 9 期計画に落とし込んでいきたい。

（会長）

居場所の復活には、行政的な支援も必要なのかもしれない。個人の介護予防について進める必要があり、バランスよく取り組みを進めていかなければいけない。

(2) 地域包括支援センター運営協議会に関すること

【議題1】 地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について
(承認事項)

概要説明（高齢福祉課）

- ・ 地域包括支援センターが介護予防ケアマネジメント及び指定介護予防支援の業務の一部を委託できる指定居宅介護支援事業所について説明

(会長)

今御説明いただいた承認事項はよろしいでしょうか。

(承認の確認)

ありがとうございます。

【議題2】 令和5年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について（承認事項）概要説明（高齢福祉課）

- ・ 令和5年度豊田市地域包括支援センター事業運営方針について説明

(委員)

新しいキーワードとして、「チームオレンジコーディネーター」があるが少し説明してほしい。

(事務局)

本人や家族などの希望を叶えるために支援者として認知症サポーターなどつなぐ役割を期待している。新しい言葉ではあるが、すでに活動していただいている内容ではある。

(会長)

各地域包括支援センターに対して、事務局としてここは頑張ってもらいたいということはあるのか。

(事務局)

28地域あるので、それぞれ特色はある。地域ケア個別会議は、引き続き個別支援を重点的に行い、課題を拾い、豊田市の状況や必要なことを把握し、改善まで繋がれるとよいと考えている。

(会長)

個別の地域ケア会議はできているが、共通する課題を地域としてどう捉えて、解決策を検討できるかという説明でした。

今御説明いただいた承認事項はよろしいでしょうか。

(承認の確認)

ありがとうございます。

【議題3】豊田市認知症初期集中支援チームの今後のあり方について

(報告事項)

概要説明（高齢福祉課）

- ・豊田市認知症初期集中支援チームの今後のあり方について説明

(委員)

今後は個別の症例の相談を受けるのではなく、地域包括支援センターが相談を受けてそれを一緒にサポートする、対応していくという立ち位置の変化ということによろしいか。

(事務局)

スキームを変えるわけではない。全て初期集中支援チームが関わることが難しく、地域包括支援センターが主体的に担っていく。だが、必要に応じて初期集中支援チームの方にもサポートをしていただき、役割分担を行いながら活動していく形を考えている。

(会長)

初期集中支援チームが本人支援も家族支援もするが、地域包括支援センターが直接関わるウェイトを高めていくという認識である。

(委員)

高齢者全体が増えていくが、その対応についてどのように考えているのか。

(事務局)

豊田市の強みとして28の地域包括支援センターの活動が活発にできるように市が支援をしていきたい。その一つとしてシステムを導入し、訪問先でパソ

コンに入力できるようにして、時間を生み出し、その時間を個別の支援に充てていきたい。

全体の取組は9期計画の策定で皆さんと一緒に検討していきたい。

(会長)

施設の必要数なども含めて今後の計画策定で議論していきたい。

認知症の相談について、地域包括支援センターを経由せずに初期集中支援チームにつなぐ場合もあるのか。

(事務局)

緊急を要する場合は、医療機関、ケースワーカーから直接、つなぐこともある。

(会長)

豊田市の仕組みとしては、今後はできるだけ28の地域包括支援センターでキャッチアップして認知症支援につなげていくことになる。

(委員)

地域包括支援センターに比べて、初期集中支援チームの認知度が低い。薬局の店頭でのポスター掲示など認知度を高める取組ができればと考えている。

認知症の方に初期集中支援チームを紹介するのかを悩むことがある。現在は、それほど困っていないが、半年後などを考慮すると紹介すると良いが、紹介しても良いのか悩むところがある。初期集中支援チームのマンパワー等実態がわからないため知りたい。

(事務局)

現時点では、原則は地域包括支援センターを紹介いただいて、相談につなげていきたい。初期集中支援チームではやれることが限られるので、幅広く地域包括支援センターで対応していきたい。

情報発信、啓発には力を入れていきたい。認知症ケアパスなど、パンフレットを改訂したので、活用いただきたい。

(会長)

今御説明いただいた承認事項はよろしいでしょうか。

(承認の確認)

ありがとうございます。

(会長)

全体を通して御意見・御質問ある方、どうですか。

(委員)

免許の返納など外出方法が限られる。外出支援をもう少し拡大していただきたい。例えば、足助のひな祭りや小原の和紙の里などをバスで行けるようにしたりできれば健康づくりや認知症の改善になるのでは。

(事務局)

コロナ禍でなかなか PR ができなかった。

寿楽荘で宿泊に限って 1 か所だけ公共施設を中心に立ち寄れる取組を行っている。他にも利用者の方のご希望を募り、楽しんでいただける機会に繋げていきたい。

(委員)

介護人材不足について、給料面が問題となっているのか。高齢者が増えているので、人材面をどのように考えているのか。

(事務局)

現状、行っている外国人人材支援や子どもたちに向けた介護職の魅力発信などを少しずつ増やしていければと思っている。

給料の上がる仕組みも国によってつくられているが、なかなか複雑で使ってもらいづらいのが現実。ここも声を上げていきたい。資格に対する補助金も出しており、定着が促進されるようにもしている。

(委員)

市の方でも就職説明会や高校生向けの講座、中学校の家庭科授業などで種まきをしていただいている。外国人の採用もしているが、よく働いてくれる。当初は外国人人材に抵抗もあったが、高齢者は比較的、柔軟に受け入れてくれている。

(委員)

会全体で考える部分、難しい部分が多かったが皆さんの熱心なお話を聞いて、1つでも吸収できるものがあたらしていきたい。

(委員)

初期集中支援チームを初めて知った。私がお手伝いに行っている方にも包括が付いている、見守ってくれていると安心したし、利用者の皆さんも喜んでくれている。私たちもこうした安心した暮らしをお手伝いしていきたい。

(委員)

今年の10月に豊田市で地域共生社会推進全国サミットが行われる。このサミットに関して、介護福祉の計画とリンクしていくのか。

(事務局)

地域共生社会が幅広く多岐にわたるため、今回の結果からはみ出る部分もあるかもしれないが、コンセプトとしてはずれない形でやっていく。場合によっては、協力をお願いするかもしれません。

(委員)

2022年に行われた調査の結果ということでお話を伺っていたが、在宅医療など質問の軸になるもの以外が表されてこなかったことが少し残念であった。せっかく調査対象を事業所やケアマネなど当事者以外も対象にしているので、課題だけでなく満足されているサービスなど良かったという声も、この場で共有できると良かった。ぜひ9期では8期までの行政計画を評価した上で、目標を設定していくお話ができたらと思った。

豊田市は28の包括を持っていることが強みで、相談窓口や相手も増え、それが幸せ感に繋がっていることを受け、これが満足感や市の目標にも繋がっていることを聞いて良かった。

介護人材事業に関しても、学生に向けた体制が今後充実していくとよいと思った。

(会長)

ありがとうございました。年度明けの会議では、8期計画の総括的なやり取りを行う理解でよろしいですね。

事務局にお返しいたします。

3 報告事項

配食サービス個人負担金の適正化について

概要説明（高齢福祉課）

- ・配食サービス個人負担金の適正化について説明

4 連絡事項

令和5年度豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会スケジュール

概要説明（介護保険課）

- ・令和5年度豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会スケジュールについて説明

（事務局）

以上を持ちまして、令和4年度第2回豊田市社会福祉審議会高齢者専門分科会を終了します。ありがとうございました。